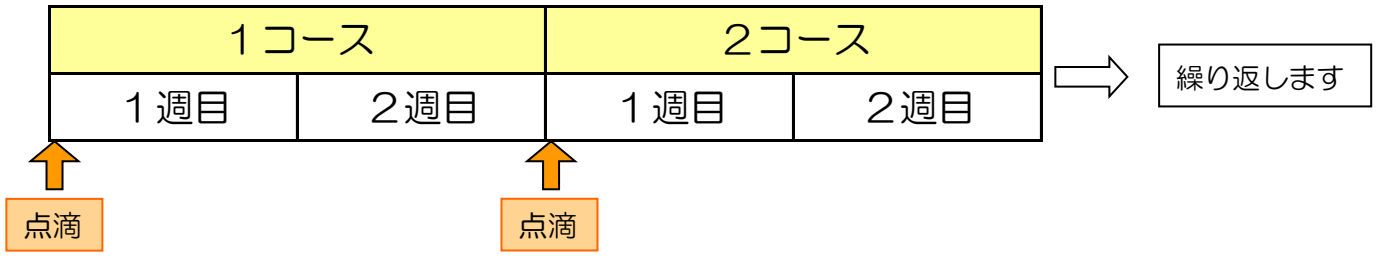


# FOLFOX4（フォルフォックス4）療法について

## 1. 治療のながれ

### 治療スケジュール

通常「2週間」を一区切り（1コース）として治療します。  
副作用の程度や体調によって治療計画を変更することがあります。



### 点滴スケジュール

点滴時間「約48時間」患者様の状態に応じて長くなることがあります。

### 1日目

薬品名		点滴時間	薬効
	アロキシバッグ + デキサート	30分	抗がん剤投与に伴う吐き気を予防します。 アロキシ：セロトニン拮抗薬 デキサート：副腎皮質ホルモン（ステロイド） 過敏反応の予防にも用います。
同時投与		120分	フルオロウラシルの抗腫瘍効果を高めます  細胞の分裂を抑え抗腫瘍効果があります
		120分	
		15分	
		22時間	

### 2日目

薬品名		点滴時間	薬効
	生食 100ml + デキサート	30分	抗がん剤投与に伴う吐き気を予防します。
	5%ブドウ糖 250ml + レボホリナート	120分	フルオロウラシルの抗腫瘍効果を高めます
	5%ブドウ糖 50ml + フルオロウラシル	15分	細胞の分裂を抑え抗腫瘍効果があります
	ヴィーンD500ml + フルオロウラシル	22時間	

血液検査の結果や問診による自覚症状の有無を確認し、化学療法実施の決定を医師が行います。この他にも輸液等を使用することがあります。

## 2. 予想される副作用

- 副作用は、治療内容や個人個人で症状の現れ方や程度が異なります。このため、副作用が出現した場合は、早期に対応できるようにすることが重要です。
- 副作用は、治療開始後すぐに起こる症状や、治療を繰り返すことで起こる症状があります。
- 副作用は「自分でわかる症状」と「血液検査などでわかる症状」があります。

**副作用の特徴を理解し、体調に異常を感じた場合はすぐにお知らせください。**

### ▼ 「自分でわかる症状」

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
吐き気・嘔吐・食欲不振 投与直後から 7 日目頃 	<ul style="list-style-type: none"> <li>投与後すぐに起こる場合。</li> <li>投与翌日から 1 週間ぐらいの間に起こる場合。</li> <li>投与前から起こる場合。</li> <li>食事のにおいなどで起こる場合。</li> </ul> これ以外でも変わったことがあった場合は報告してください。吐き気止めや症状や原因に応じてその他の薬剤を使用します。
下痢 投与直後から 7 日目頃 	普段から便通の状態を把握するように心がけてください。腹痛や、下痢でトイレの回数が多い場合は報告してください。症状が出現したときは水分補給をこまめに行ってください。下痢止めや水分補給のための点滴を使用します。
便秘 投与直後から 7 日目頃	便を軟らかくする薬や腸の動きをよくする薬を使用します。また症状に応じて、坐薬や浣腸を使用することがあります。
口内炎・歯肉炎 投与後 7 日から 14 日目頃 	口の中を清潔に保つように心がけてください。刺激の強いものや極端に熱いものはなるべく避けてください。痛みで歯磨きができない場合でも、うがいはしてください。症状が出現時は、軟膏やうがい薬を使用します。
過敏症 投与当日 	<b>発疹、発赤、咳、発熱、悪寒、呼吸苦、浮腫など</b> 薬剤や食物などのアレルギーは必ず申し出てください。少しでもおかしいと感じたときはすぐに申し出てください。症状出現時は、抗アレルギー剤、ステロイド剤を使用します。まれに投与後に症状が出現することがあります。
疲労感・倦怠感・発熱 投与後 2 日から 3 日目頃	無理をせず、十分な休息とるようにしてください。肝機能が影響して症状が出現する事があります。発熱の症状に応じて解熱剤を使います。 
間質性肺炎	空咳、息切れ、発熱など 症状を感じたら受診し、適切な治療を受けてください。
色素沈着	手足や爪を中心に全身の皮膚が黒くなったりします。直射日光を避けるようにしてください。症状は薬剤を中止で改善する報告があります。

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
血管痛 主に投与中	痛みや発赤、腫脹など少しでも違和感がある場合はすぐに報告してください。 血管を温めたりすることで症状を軽くすることができます。
末梢神経障害 主に投与後から5日間程度	手、足のしびれや痛み、のどやあごが締めつけられるような感じ、食べ物が飲み込みにくい 舌の感覚がおかしい など 投与後に冷たいものの刺激によって起こります。 投与後5日間程度は、冷たい食べ物や飲み物の摂取は避け、冷氣や冷たいものに触れないようにしてください。症状は、出現しても一過性のものです。 投与を繰り返すと、症状が持続することがありますので、すぐに申し出てください。通常は、休薬で症状は改善します。
眼障害 結膜炎、かゆみ、目やになど	症状に応じて抗菌剤等の点眼液を使用します。 洗眼することで症状が軽減することがあります。

### ▼「検査でわかる症状」



定期的な検査を行い、問題ないことを確認していきます。

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
白血球・好中球減少	感染症にかかりやすくなります。感染予防を心がけてください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・帰宅時に手洗い、うがいを行う。</li> <li>・歯みがきは口の中を傷つけないように気をつける。</li> <li>・風邪など感染症にかかっている人に近付かない。</li> </ul> 風邪などの症状がある場合は早めに受診するようにしてください。 減少の程度によって、内服薬または注射薬を使用します。
赤血球減少	めまい、倦怠感、息切れなど貧血時に見られる症状が出現します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・減少の程度によって、内服薬または注射薬を使用します。</li> <li>・減少の程度では、輸血することがあります。</li> </ul>
血小板減少	出血しやすくなります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・怪我や内出血（打ち身などによる）に注意してください</li> <li>・覚えのない内出血や血便が見られたときは報告してください</li> <li>・減少の程度に応じて輸血することがあります</li> </ul>
腎機能 肝機能 電解質 などの項目も問題ないか確認していきます	

ここに書いてある以外の副作用が現れるかもしれません。普段と何か違うな、おかしいなと感じたときは医師、薬剤師、看護師に報告してください。

治療を受けているときは、様々な不安や疑問を感じると思います。  
そのようなときは主治医、薬剤師または看護師にお気軽に相談してください。



鹿児島市医師会病院 化学療法委員会  
099-254-1125